

映画タイトル	Monsoon Wedding (モンスーン・ウェディング)
製作年	2001年
DVD 情報	日本で入手可/英語字幕なし (114分)
監督	ミーラー・ナーイル
映画について	2001年ヴェネチア国際映画祭金獅子賞受賞。ナーイルはパンジャブ地方出身の両親のもとに生まれ、デリーで大学教育を受けたあとアメリカに移住しています。アメリカに住むインド系移民を描いた『ミシシッピー・マサラ』(1991)、『その名にちなんで』(2006)ほか、『カーマ・ストラー愛の教科書』(1996)など。
主要キャスト	ナシルディン・シャー (ラルット役)、ヴァスンドラ・ダス (アディティ役)、ヴィジャイ・ラーズ (ドゥベイ役)
あらすじ	デリーに住むビジネスマンのラルット・バルマは長女アディティのためにパンジャブ地方伝統の豪華な結婚式を挙げる準備に忙しい。アメリカ、バーレーン、オーストラリアなどに移住した親戚が結婚式参列のために帰国するなか、アディティには前の恋人が忘れられず会いに行ってしまう。アディティの従姉リアは帰国した親戚を見て過去の屈辱的な経験を思い出す。ウェディングプランナーのドゥベイはバルマ家のメイドに恋をする。それぞれの登場人物の思いが描かれる群像劇。
英語の特徴 発音・文法・語彙	<p>【多言語使用と言語切り替え】『モンスーン・ウェディング』は基本的に英語を用いた映画ですが、ヒンディー語、パンジャブ語、ウルドゥー語も用いられています。ヒンディー語はインドの連邦公用語で、特に北インドの共通語ともなっています。パンジャブ系インド人なのでパンジャブ語も随所で用いられています。例えばアディティの祖母の台詞の台詞は「婚礼前に縁起でもない。ラルットは全部ひとりでやっているんだからね。イライラがつのも無理はないよ」と一文毎に、ヒンディー語、英語、パンジャブ語と切り替えられています。このような英語とインドの言語との頻繁な言語切り替え(コードスイッチング)についてナーイル監督は、インドのミドルクラスの人々の間ではよくあることだと述べ、また、この映画ではパンジャブ系インド人の婚礼を描いているので、より親密な間柄、話題のときにパンジャブ語を使ったとも言っています。一方で、ウルドゥー語は、結婚式前夜のパーティで詠まれる詩や歌(ガザル)で用いられています。</p> <p>【登場人物の英語特徴】登場人物のなかで、インド英語の音声特徴(スピードが速い、音節拍リズム、/r/が強い、/w/と/v/がいずれも有声唇歯接</p>

	<p>近音として発音される、/t/や/d/がそり舌音として発音されくぐもった音に聞こえる等) がはっきりでているのは、バルマ家の家長で花嫁の父であるラリット、母ピミ、ウェディングプランナーのデュベイなどです。アディティと婚約者(アメリカに住むパンジャブ系男性)は英語で話しており、二人ともインド英語の音声特徴の少ない英語を話しています。</p> <p>【英語を話さない人々】一方で、映画のなかには英語をまったく話さない人もでてきます。英語を日常的に話すかどうかというのは、その人の社会階層、受けた教育と密接にかかわっています。バルマ家のメイドのアリスや、デュベイの指示のもと結婚式の準備をする職人たちがそうです。デュベイはラリット・バルマ氏とはヒンディー語と英語を切り替えながら話していますが、職人たちやアリスとはヒンディー語のみを話しています。デュベイは出身階層的には職人やアリスたちと近いものの、自分で始めた事業を成功させた新興のビジネスマンとしても描かれており、それが英語とヒンディー語を切り替える話し方に表れています。</p> <p>【語彙的特徴】ヒンディー語やその他のインドの言語の単語が英語のなかに入っている台詞が少なくありません。例えば洋服ダンスの中に隠れていた幼いアリヤが従姉リアに言うセリフは “I saw cousin Aditi nanga, I almost saw you nanga, too.” (アディティお姉ちゃんの裸を見たし、お姉ちゃんの裸も見るところだったよ) ですが、nanga はヒンディー語、ウルドゥー語で「裸」を意味します。また、ラリットがアメリカから帰国してくれた姉に言う “We couldn’t have had the shadi without you.” (姉さんたち抜きでは結婚式は上げられなかったよ) というセリフでは、「結婚式」を意味する語でペルシア語からヒンディー語に入った shadi が使われています。</p>
映画のみどころ	<p>日本で発売されている DVD には英語字幕がついていないので、インド英語独特の発音を細部にわたってすべて聞き取るのは難しいかもしれませんが、英語と他言語(ヒンディー語、パンジャブ語、ウルドゥー語)が切り替わり交錯する活力あふれる台詞の流れを感じてみてください。インドの言語を使った台詞のなかにも頻繁に英語の単語が使われているので、そこだけがはっきりと耳に飛び込んでくるでしょう。なお、海外版 DVD では英語字幕が見られますので、細部の理解については併用をお勧めします。</p>
その他	『世界の英語を映画で学ぶ』第7章で詳しい分析を行っています。